



校舎増改築工事が始まりました

11月1日(月)から増改築工事のために運動場南側に運動場と工事現場を隔てるための高さ約2mのフェンスが運動場に立てられました。今までより運動場が狭くなっただけでなく、子どもたちが休み時間に走り回っていた野原や楽しく遊んでいたブランコ、滑り台、ジャングルジム等が使えなくなりました。今まで運動場南側にあった鉄棒は、運動場東側に移設してもらいました。又、少しでも遊べる場ができるよう新築工事された筑後保育所から滑り台とジャングルジムの頂き、運動場東側、低学年の教室の近くに設置してもらうようにしています。これから約2年間(令和5年)の予定での工事となりますが安全に無事終了することを願っています。



フェンスで仕切られた運動場

見えない未来の道しるべ

○ 青少年健全育成のための意見発表会

11月7日(日)令和3年度 青少年健全育成のための意見発表会がサザンクス筑後で開催されました。小学生は、「伝記を読んで思うこと」というテーマで市内11校の代表の子どもたちが参加しました。筑後小学校からは、6年生の藤本 稟さんが「1パーセントの可能性を信じて」という題名で、古賀 稔彦さんの伝記を読んで考えた自分の意見を発表してくれました。

古賀 稔彦さんは、バルセロナオリンピック男子柔道71kg級の代表で事前の練習中、膝に全治一ヶ月半の大怪我を負います。しかし、そんな絶対絶命の中でも決してあきらめることなく、5試合を勝ち抜き、見事金メダルを獲得した選手です。稟さんは、この古賀 稔彦さんの姿から、いろいろな壁にぶつかった時に大切なこととして、次のことを学んでいます。



6年 藤本 稟さん

- ・「絶対にこうなりたいという目標を持ち、一個一個の努力を積み重ねていくこと。」
- ・「自分自身をじっくり見つめ直し、今の自分に足りないことを補うこと。何より、できない自分を悲観するのではなく、自分の努力をしっかり認め、信じるのが大切だということ。」

全員の発表後行われた、全体を通しての講評では、「努力することの意味を深く感じることができたり、歴史を深く学び、教養を高めたりするなど、伝記を読み、偉人と出会うことで、これからの自分の生き方を考えるきっかけにしている素晴らしい発表でした。」という言葉を受けました。

○ 上級生の踊りを見学する下級生

右の写真は、運動会の前日、6年生の「よきこいソーラン」の踊りを見ている下級生の様子です。下級生は、6年生の力強い踊りを見て何を思ったのでしょうか。私は、その姿に「私も6年生になったら」等、未来の自分たちの姿を重ねて見ていたのではないかと思います。「上級生の姿が、下級生の目指すべきよきモデルとなること」ここに異学年で学習や生活する学校の意義があるように感じています。



6年の踊りを見る下級生

子どもたちは、伝記の中の偉人と出会ったり、モデルとなる上級生の姿から目指すべき未来の自分の姿を見つけることができるようです。そう考えると、一番身近にいる大人の姿は、未来の自分の生き方や目指す姿を探している子どもたちにとって、大きな影響を与えている存在だと言えます。子どもたちの意見発表会や、上級生を見つめる下級生の姿から、自分の有り様を考えさせられました。

毎朝の車での送りについて

「約20台」これは、毎朝桜門から、子どもたちを学校に送ってこられている車の数です。桜門前の道路は、毎朝多くの通勤する車や通学する自転車が通行しています。そんな中、学校に入ってくる車(子どもの送り、勤務する職員)と、子どもを下ろした後、桜門から出ていく車が行き交う中を、約100人以上の子どもたちが、徒歩で登校しています。いつ事故が起こっても不思議ではありません。

特別の事情がある場合以外は、車での送りをご遠慮いただきますようお願いいたします。

お知らせ

保護者の皆様には、昨年度お知らせしていましたが、2学期は、面談を通して学習の状況や学校生活の様子をお伝えしますので、2学期の通知表は、各教科の評価のみとし、所見の記入は行いません。
※4年2組は、担任の怪我による療養のため、個人面談を実施していませんので、所見の記入を行います。

【校長のつぶやき】

右の写真は、子どもたちの下駄箱の写真です。一人ひとりの下駄箱には、子どもたちが靴を揃えやすいように、赤いビニールテープを貼っています。「履き物を揃えることは、心を集中させることや心を揃える(整える)ことにつながる。」と昔から言われています。大きな事ではありませんが、子どもたちの心が少しでも整い、落ち着いた生活をおくってくれたらと考えています。



揃えられた靴